

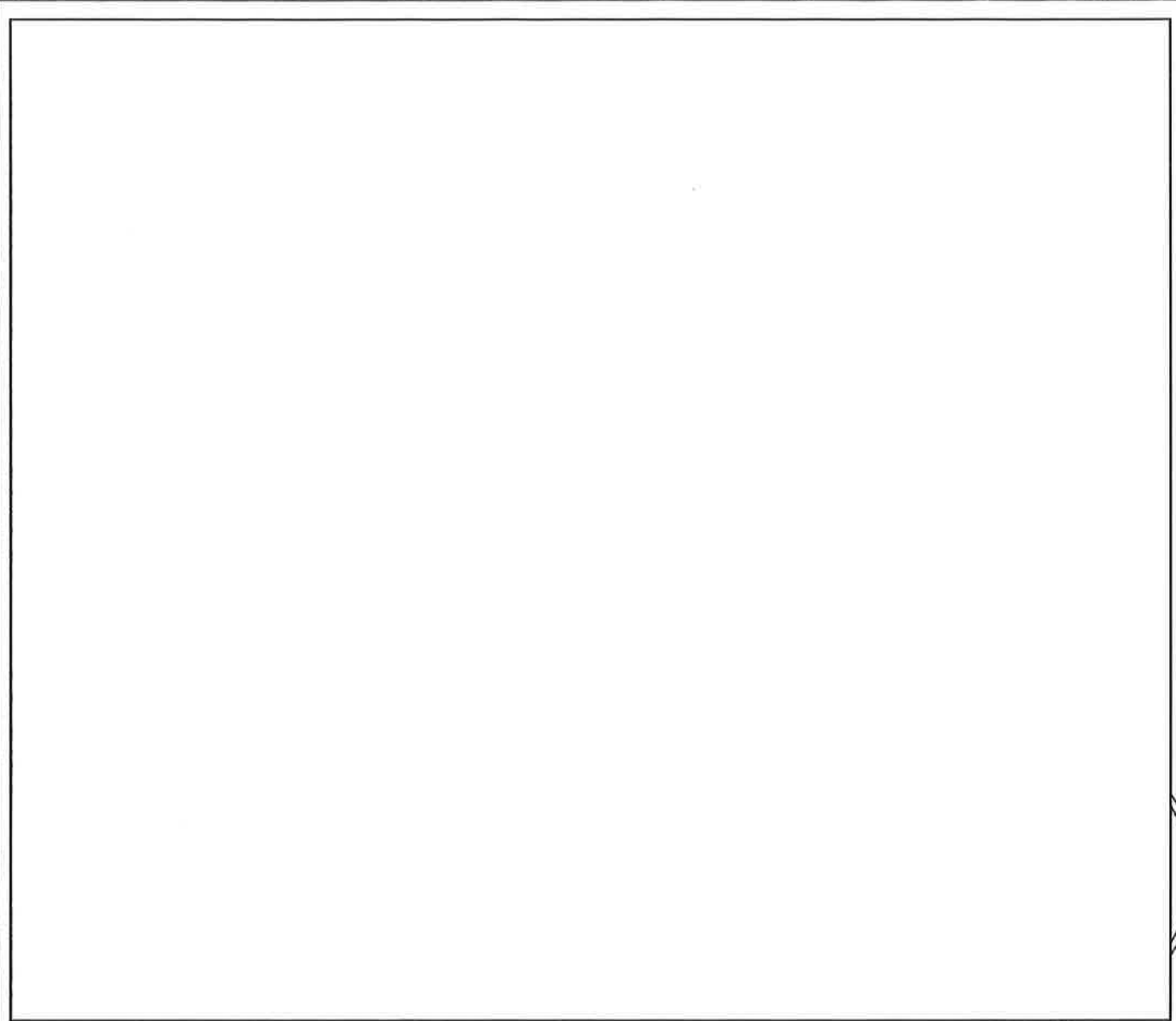


2011年1月15日 発行

2011年冬号

<第14号>

編集・発行/社会福祉法人ワークスユニオン 代表/下野英世 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881 FAX06(6556)0882 works-union@y3.dion.ne.jp http://www.v-aid.org/union/



『私のこと』

私は昭和19年に島根で生まれました。せんそうが終わつてから、お父さんとお母さんと大阪にきました。食べものはちよつとしかありませんでした。もうちよつとほしいと思いました。

友達がたくさんできて、いっしょに学校へ行きました。国語が好きでした。

お母さんとたくさん話しました。お母さんは私のことを心配しました。ときどきおこられたけど、やさしいお母さんでした。お母さんが亡くなったときはさびしかったです。

しえんセンターと、グループホームに住みました。いろんな仕事をしました。木のくみたての仕事は楽しかったです。しゅうしょくしてよかったですなあと思いました。

今したいことは、島根に旅行に行きたいです。自分が生まれた場所だからです。

多田 和子

施設外就労 OMC・Lクラス

いっしょに二歩ずつ

「企業で働きたいけれど、職員が傍にいて欲しい...」。このような願いを叶えられるよう、これまでの企業就労の支援とは違った方法「施設外就労」制度を利用して支援を行っています。

OMCは、平成十九年七月より、有限会社オーエムクリイティブさんのスペースをお借りして作業をしています。男性二名・女性一名の合計三名が働いています。

また、平成二十一年十月には、系列会社の有限会社Lクラスでも事業が始まり、男性三名・女性二名の五名が新たに加わりました。

主な作業は、無印良品のハンガー製作、輸入貨物の検品、Lクラスさんが企画された商品の製作です。

OMCの最寄駅は地下鉄中央線長田駅。駅から歩いて二十分の町工場が立ち並び東大阪市楠根という場所に会社があり、彼らも駅から徒歩で会社へ向かいます。

「おはようございます！」

会社に着くと、皆さんが大きな声で挨拶して、タイムカードを印字するのが一日の始まり。その声に、現場の社員さんも笑顔で応えます。出勤の時間に、一人でも声がしない日には「今日、〇〇さんは休み？」

と聞かれることもしばしば。社員さんも彼らを会社の同僚と思つて接しています。

社員さんの優しい「言葉かけ」や「見守り」があることも、彼らには心強いものだと思います。

OMC・Lクラスは、一つの企業さんと契約をしているため、工賃は月給制となっています。他の事業所よりも高額の工賃で月給制というのも特色かもしれません。これまでのユニオンの事業所とは違う環境の中

で、自信を持ち、いきいきと作業されています。

OMCでは、企業就労を経験したことのある女性が元気に通勤されています。彼女は、就職しても精神的に追い詰められ、すぐに離職してしまうことが多く、体調を崩してしまい、「企業では働きたくない」という気持ちになっていました。

そんな彼女が、職員が傍にいるなら「もう一度、会社で働いてみたい」という思いで、OMCに通勤し始めて4年が過ぎようとしています。今では彼女が「ここではずっと頑張りたい。だつて仕事が面白いから。」と、笑顔で話します。以前の彼女からは想像もできなかった言葉のように思います。「職員と一緒に企業で働きたい」という思いが叶ったOMCは理想の職場なのかもしれません。

休日は、自宅でヘルパーさんと料理を作ったり、買い物に出かけたりして楽し

い時間を過ごしています。月曜日に出勤してからの話題は、週末にヘルパーさんと何をしたのか。その様子を楽しそうに話す彼女は、会社の人気者でもあります。



自閉傾向のある男性がいます。Lクラスができるまでは、人数の多い他の事業所で働いていました。仕事はゆつくりと自分のペースで最後まで受け持つ彼ですが、大人数だと作業に集中できず、パニックを起こすことや、他の利用者から注意を受けてしまうことも多々ありました。そんな彼は、Lクラスに異動してからは、以前のようパニックは起きていません。きっと、

少人数で働きたい、職員と一緒に企業で働きたい...。利用者は、色々な思いを持って働いています。その思いに慮ることが出来るよう、利用者や職員がいっしょに一歩ずつ、より良い支援を目指していきたいと思

います。
(高橋)

ユニオン流の「就労支援」

「企業就労の試みに幾度か失敗した人たち
またその途中で断念した人たち

それでもなお企業で働きたいと思う人たちのために
企業の中に彼らの働く場を教ヶ所作りました・・・」

(パンフレットより)

私たちワークスユニオンの支援の守備範囲は、企業就労に失敗した人たちまた企業就労を断念した人たち。その生活を、一生涯に亘り、「就労面」「生活面」両面に亘りトータルに支えること。

私たちは、一人ひとりの利用者へ、「今まで努力し続けてきたんだから、これ以上無理しなくてもいいよ。」「今まで培ってきた力を使って、自分らしい生活を創ろうよ。」と語りあげたい。

「企業就労へ導いて欲しい」との要望は、他の支援機関にゆだねてきたし、「これからささずするつもりで、一般的な「就労支援」に、手を染めるつもりは毛頭ないし、それをしようとする」と「我々の支援スタンス」が変わってしまうと考えている。

こんな私たちの、「就労支援」には、自ずと眼界があるし、それでいいと考えている。

私たちが支援する利用者
の一人に、Sさんという四
一歳の女性がいます。

彼女の苦悩に満ちた人生
の紹介を少しします。

福祉的な支援を受けるようになる。

とある授産施設で、「企業就労」に向けての訓練を受けポルトナットの組み立て会社に就職するが、一年半で退職。その後、何社か入退社を経た後に、私たちの支援を受けるようになる。

最初、私たちも彼女の「就職したい」との願いを受けて、「エルチャレンジ」を活用して、清掃会社へのサポート付きの就労を実現。

それでも、半年後には職場へ足が向かなくなり退社。

彼女の本当の思いは、「働きたい」「就職したい」との彼女の言葉は、本当に「企業就労を続けたい。」との気持ちの表れなのだろうか？

今までの、企業就労を是とする支援を受け続けてきたことによる「働きたい」ではなく「働かなければならない」との強迫観念の表出ではないのかと考えると、

福祉施設の現場では、終始

和やかに働けているのに、いざ就職すると、「働きたいのに、自分がうまく働けないのは周りが悪い」と眉間にしわを寄せながらいつも苛立っている彼女の状態は、「しんどいねん」「もう少し楽に生きさせて」との切なる願いに聞こえた。

「お金がたくさん欲しい」「仲間と和気あいあい働きたい」「福祉施設の中ではなく、企業の中で働きたい。」「.....」

一人ひとりの利用者の「働きたい」と言う言葉に込められている意味合いは異なるが、可能な限りその願いに応えて行きたい。

「企業の中で、社会の風を感じながら働きたい」「少人数で和気あいあいと働きたい」こんな希望を持つ利用者のための「働く現場」が、「施設外就労」の現場となっている。

現在、ユニオンの施設外就労の現場は、有限会社柳

化成工業所内の「歩」、有限会社オーエムクリエイティブ内の「OMC」、有限会社Lクラス内の「Lクラス」の三ヶ所となっているが、まだまだ少ない。

今後も、協力して下さる企業を探し、拡充していきたい。

先に紹介したSさんは、「OMC」にて、利用者三人支援者一人のグループで、休むことなく働き続けている。

「企業就労」に比べると工賃は半分だが、表情に笑顔が戻り、人に対する不満や不満を口にするこども、めつきり減り、以前とは、別人のような人生を歩んでいる。

利用者一人ひとりが「満足感」を感じながら、過度のストレスを感じるこどもなく働ける場の提供を、これからも心がけて行きたい。

(南石)

新しい旅行のかたち

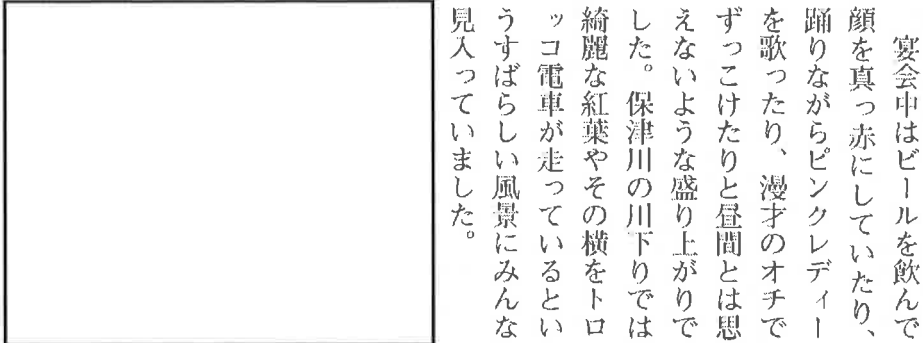
ワークスユニオンでは毎年十一月に、事業所ごとに一泊二日で事業所旅行に行っています。

今年、ワークス集では、日帰りで京都の嵐山へ行ってきました。

一泊二日で行けるところは行き尽くした感があり、最近では利用者から、「今までより遠出の旅行がしたいー」という声が出てきていました。利用者や保護者の方々と検討した上で、遠出をする費用を貯めるために、今年の日帰りでの旅行を行い、貯めた費用で来年に、二泊三日の旅行を行う事に決まりました。

検討中は、「先に二泊三日で旅行に行きたい」、「日帰り旅行は楽しそうじゃない」という利用者の不安や迷いの声もありました。 どういう形がいいのか決まるまで時間ばかりでしたが、旅行担当職員を中心に、利用者と一緒に計画

しながら内容を充実させる事で、みなさん大満足の旅行にすることができました。 宴会中はビールを飲んで顔を真っ赤にしていたり、踊りながらピンクレディーを歌ったり、漫才のオチでずっこけたりと昼間とは思えないような盛り上がりでした。 保津川の川下りでは、綺麗な紅葉やその横をトロッコ電車が走っているというすばらしい風景にみんな見入っていました。



今から来年の旅行について、みんなワクワクしながら話しています。来年もそんな期待に答えられる様な旅行にしたいと考えています。 (横田)

職員紹介

高橋慎治

広島・呉ののんびりした環境で育ちに育った彼の身長は180センチ、足のサイズは29センチ。靴はもちろん特注。下駄箱の扉も閉まりません。

そんな巨体に負けない大きな夢を持ち、仕事の傍ら大学院に通い「福祉工学」を研究しています。いつか彼の研究成果がビッグな革命を起こし、「福祉界の巨人」となるかもしれません。 故郷を離れ、大阪の生活にも慣れましたが、お好み焼きの味は、やっぱり広島が一番だそうです。

山口美環・阿部 聖

交代でLクラスを担当しています。 (村瀬)

お詫び

以前、第十号の四面にて「守りの支援」とは何かという議題を取り上げました。平成十九年度総括会議において議論したことを踏まえて書いていましたが、その後、機関紙の発行が滞ってしまい、「守りの支援」について触れずにきています。それから約三年が経ち、職員もかなり入れ替わり、人数も増えました。

支援者が増えても支援の本質を変えず、ユニオンらしい支援のあり方を求め、よりいっそうベクトルの先を共有できるよう話し合っ ていかなければなりません。 今後、「守りの支援」について確認し合い、登載できるように努力していきたいと考えております。 (岩本)

編集後記

▼ワークスユニオンの作業所を利用する方は、かつて一般就労をされていた方、もしくは、就労に向けての訓練を受けていた方がほとんどです。▼熱心に仕事に取り組む姿勢や様々な場面での適応力の高さ、何よりも仕事に対する誇りは並外れたものがあります。企業や就労訓練の場で培った力が、彼らの中に脈々と流れています。▼しかし、職場での要求の高さや職場環境、人間関係のトラブルなどに つまづいてしまい、心に傷を負った人がいることも事実です。それでも、「企業で働きたい」と願う人たちに とって、OMC・Lクラスのような企業内作業所は、安心して働き続けることができる場所なのでしょう。▼ ところで私たちは、どこまで彼らの働く思いや、希望の支援に近づけているのでしょうか。一人ひとりの検証が必要です。 (S)